

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要					
建物名称	(仮称)ヒーロマンション米山5丁目				
建設地	中央区 米山5丁目137-1,137-30				
用途地域	近隣商業地域、準防				
建物用途	集合住宅				
竣工年	2017年7月 予定				
敷地面積	922.20 m ²				
建築面積	283.73 m ²				
延床面積	2,319.13 m ²				
階数	地上9F				
構造	RC造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2016年8月1日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{46.9}{34.8} = 1.3$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 2.5		バリアフリー	Q2.1.1.3	1.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 2.7		維持管理	Q2.1.3	3.5
			更新性	Q2.3.3	3.0
			耐震・免震	Q2.2.1	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 3.0		信頼性	Q2.2.4	2.4
			雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.8		建物の熱負荷抑制	LR1.1	5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	2.5
			5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 4.3	
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.0		リサイクル材の使用	LR2.2.4	5.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	5.0
			生物環境の保全・創出	Q3.1	1.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 3.0		敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
			まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
資源循環への取組み 資源の再利用化を促進するために材料や工法について配慮し選定した。					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヒーローマンション米山5丁目	階数	地上9F
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	96人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	XXX時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年7月 予定	評価の実施日	2016年8月1日
敷地面積	922 m ²	作成者	(株)廣瀬 浅間利洋
建築面積	284 m ²	確認日	
延床面積	2,319 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 建設地は新潟駅の南西約1kmに位置し、信濃川と鳥屋野潟の中間に位置している。幹線県道(笹出線)に面しており、周囲には中低層の商業施設やマンション及び住宅地が混在している。沿道には同規模のマンションがあり周辺となじむような建物と計画した。		その他 断熱型枠を採用することで合板型枠を削減し温暖化抑制に努めた。
Q1 室内環境 世帯向けの住戸が多く、主採光面は東西とした。各室に窓を配置することで、採光通風などの環境を確保した。また、2重窓とすることで幹線県道からの遮音を考慮した。	Q2 サービス性能 配管類は耐用年数を考慮し、電気温水器なども共用部からの更新が出来るように配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 建物の高さや仕上げなどは町並みに配慮し選定した。
LR1 エネルギー 住戸内及び共用部について原則LED照明を採用し消費エネルギーの削減に努めた。また住戸界壁も断熱型枠を採用することで熱負荷を抑制しエネルギー削減となるよう配慮した	LR2 資源・マテリアル 資源の再利用化を促進するために各材料、工法の選定に配慮した。	LR3 敷地外環境 オール電化とすること、屋上のゴムチップタイルで温熱環境低減に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される